

# 脊柱側彎症検診

## ■検診を指導した先生

磯辺啓二郎

千葉大学教育学部教授

(協力)

慶應義塾大学医学部整形外科

済生会中央病院整形外科

順天堂大学医学部整形外科

千葉大学医学部整形外科

東京慈恵会医科大学整形外科

## ●検診の方法およびシステム

検診は、都内13区9市1町の公立の小・中学校および一部の私立学校の児童・生徒を対象に、地区により対象学年が異なるが、下図に示した方式により実施している。なお、地区ごとの対象学年は次のとおりとなっている。

◎小学5年生と中学2年生……千代田区、文京区、台東区、足立区、調布市、小平市、国分寺市

◎小学5年生と中学1年生……新宿区、中野区、豊島区、北区、荒川区、葛飾区、江戸川区、西東京市、狛江市、多摩市、日野市、瑞穂町

◎小学6年生と中学2年生……渋谷区

◎小学5年生のみ……あきる野市

◎中学1年生のみ……板橋区、東村山市

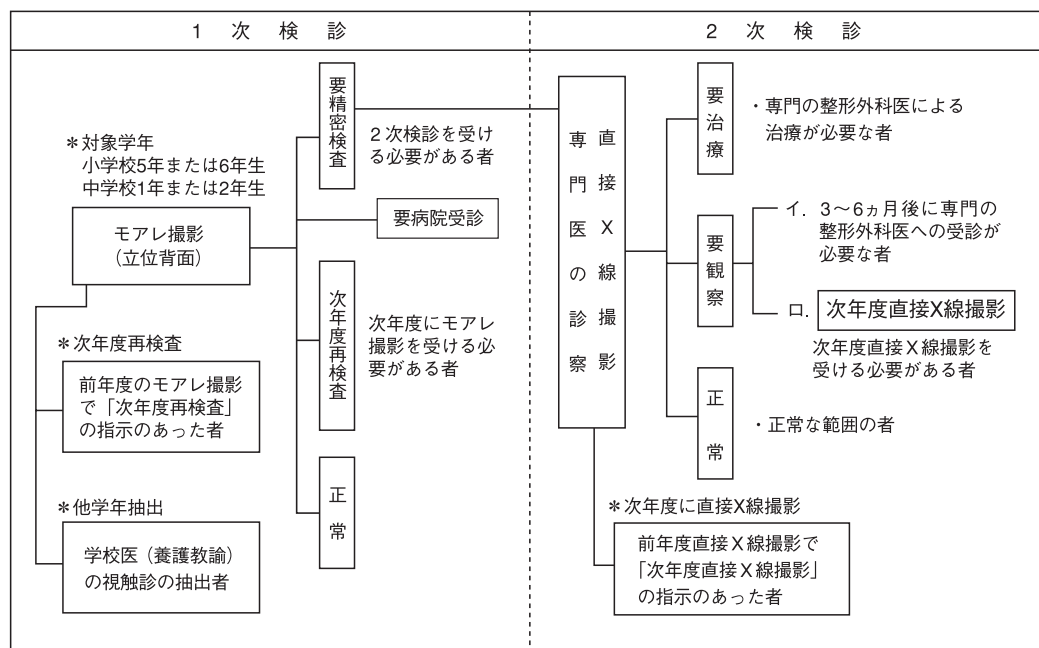
なお、豊島区と板橋区、江戸川区では1次検診のモアレ撮影のみを東京都予防医学協会(以下「本会」)で実施したが、2次検診以降は他機関で実施しているため、検診成績には含まれない。

さらに、東村山市の小学校、あきる野市の中学校、福生市、稲城市、檜原村においては、モアレ撮影の対象者を視触診で抽出(校医または養護教諭が実施)していることから、検診方式が異なるため、やはり成績から除外している。

## ●脊柱側彎症相談室

本会クリニック内に、「脊柱側彎症相談室」を開設して、治療についての相談や経過観察者の事後管理などを予約制で実施している。なお、診療と相談は、千葉大学医学部整形外科の専門医が担当している。

脊柱側彎症検診のシステム



# 脊柱側彎症検診の実施成績

大塚 嘉 則

国立病院機構千葉東病院名誉院長

## はじめに

東京都予防医学協会(以下「本会」)による、都内小・中学生を対象とした脊柱側彎症学校検診は、1979(昭和53)年4月の改正学校保健法施行規則の施行に先立つ1978年度に対象者1,473人から始まった。以来本検診は継続・発展し、2004(平成16)年度で27年目を迎えた。

この間に検診の方式は当初のモアレ、低線量X線撮影、通常X線撮影の3段階方式から、1999年以降のモアレ、専門医診察による通常X線撮影の2段階方式に変更され、より効率的な検診方式として定着している。

2004年度の側彎症検診実施地区は都内10区、8市、1町の公立小・中学校および一部の私立学校で、地区ごとの対象学年は前頁記載のとおりである。本稿ではこの2004年度の検診の実施成績を分析した。

## 2004年度脊柱側彎症検診の実施成績

2004年度の脊柱側彎症検診の総実施件数は、1次検診としてのモアレ撮影で小学生27,671人、中学生で24,408人、計52,079人である。この中から2次検診として専門医の診察を経て直接X線撮影を受けたものは小学生187人、中学生466人、計653人であっ

た(表1)。

X線撮影の結果、新たに発見された15度以上の側彎は、小学生男子14,102人中9人(0.06%)、女子13,569人中78人(0.57%)、計27,671人中87人(0.31%)であった。中学生では男子11,431人中15人(0.13%)、女子12,977人中234人(1.80%)、計24,408人中249人(1.02%)であった。

20度以上の側彎に限ると、小学生は男子3人(0.02%)、女子33人(0.24%)、計36人(0.13%)で、中

表1 脊柱側彎症検診実施数

		(2004年度)	
区分	項目	モアレ撮影	直接X線撮影
		小学校	27,671
中学校		24,408	466
計		52,079	653

注 1次モアレ、2次直接X線の検診方式による実施数。

表2 Cobb法による側彎度分類

		(2004年度)						
区分		モアレ受診者	15~19度の側彎	%	20度以上の側彎	%	15度以上の側彎計	%
			小学校	男	14,102	6	0.04	3
女	13,569	45		0.33	33	0.24	78	0.57
計	27,671	51		0.18	36	0.13	87	0.31
中学校	男	11,431	11	0.10	4	0.03	15	0.13
	女	12,977	95	0.73	139	1.07	234	1.80
	計	24,408	106	0.43	143	0.59	249	1.02
合計	男	25,533	17	0.07	7	0.03	24	0.09
	女	26,546	140	0.53	172	0.65	312	1.18
	計	52,079	157	0.30	179	0.34	336	0.65

注 ① %は、モアレ撮影受診者に対する割合。

② 成績は、1次モアレ撮影、2次直接X線撮影の方式による。

学生は男子4人(0.03%), 女子139人(1.07%), 計143人(0.59%)であった(表2)。

検診の各段階における異常者の地域別, 男女別内訳は表3~6(P46~47)のとおりである。

モアレ撮影異常者の割合は, 小学生男子で0~3.26%(表3), 小学生女子で2.56~10.26%(表4), 中学生男子で2.12~5.43%(表5), 中学生女子で7.92~13.25%(表6)であるが, いずれも母集団の数が少ないためのばらつきと考えられる。

モアレ異常者の内訳を, すべての地域の合計において見てみると次のとおりである。

小学生男子異常者170人の内訳は要精密検査者23人(0.16%), 要病院受診者2人(0.01%), 次年度モアレ再検者145人(1.03%)である(表3)。同様に小学生女子異常者621人の内訳は, 要精密検査者180人(1.36%), 要病院受診者3人(0.02%), 次年度モアレ再検者438人(3.31%)である(表4)。

中学生男子異常者380人の内訳は, 要精密検査者48人(0.42%), 要病院受診者9人(0.08%), 次年度モアレ再検者323人(2.83%)で, 中学生女子異常者1,131人では, 要精密検査者396人(3.79%), 要病院受診者40人(0.38%), 次年度モアレ再検者695人(6.65%)であった(表5, 6)。

モアレ異常者に対する2次検診としての直接X線撮影の結果を側彎度別にみると, 小学生男子では20度以上3人(0.02%), 15~19度6人(0.04%), 10~14度4人(0.03%), 10度未満6人(0.04%)である(表3)。小学生女子は20度以上33人(0.25%), 15~19度44人(0.33%), 10~14度52人(0.39%), 10度未満37人(0.28%)である(表4)。

中学生男子では20度以上4人(0.04%), 15~19度11人(0.10%), 10~14度11人(0.10%), 10度未満14人(0.12%)である(表5)。中学生女子では20度以上94人(0.90%), 15~19度83人(0.79%), 10~14度95人(0.91%), 10度未満62人(0.59%)であった(表6)。

これらをまとめると, 49,109人の中から20度以上の側彎は134人(0.27%)が発見されたが, 他方では10度未満の擬陽性者が119人(0.24%)あったことになる。

しかしこの119人もすべて専門医の視触診でそれなりのハンプが認められたものでスクリーニングの限界である。

X線撮影後の管理区分判定結果の内訳は次のとおりである。

要治療者は小学生男子1人(0.01%), 小学生女子15人(0.11%), 中学生男子2人(0.02%), 中学生女子31人(0.30%)である。

3~6ヵ月後の経過観察者は小学生男子8人(0.06%), 小学生女子82人(0.62%), 中学生男子15人(0.13%), 中学生女子159人(1.52%)である。

次年度直接X線撮影とされたものは小学生男子5人(0.04%), 小学生女子48人(0.36%), 中学生男子13人(0.11%), 中学生女子98人(0.94%)であった(表7)。

表7 モアレ異常者に対する2次直接撮影結果

(2004年度)							
区分	要治療	%	要観察 3~6ヵ月後	%	次年度直接 X線撮影	%	
小学校	男	1	0.01	8	0.06	5	0.04
	女	15	0.11	82	0.62	48	0.36
中学校	男	2	0.02	15	0.13	13	0.11
	女	31	0.30	159	1.52	98	0.94

注 %は1次受診者に対して。

表8 脊柱側彎検診 年度別検診数

年度	モアレ撮影件数	低線量X線撮影件数
1978	2,256 ( 1.0)	311 ( 1.0)
1979	17,416 ( 7.7)	2,620 ( 8.4)
1980	44,986 ( 19.9)	8,172 ( 26.3)
1981	68,157 ( 30.2)	12,584 ( 40.5)
1982	73,296 ( 32.5)	13,758 ( 44.2)
1983	74,879 ( 33.2)	11,037 ( 35.5)
1984	80,982 ( 35.9)	12,140 ( 39.0)
1985	81,466 ( 36.1)	12,628 ( 40.6)
1986	77,810 ( 34.5)	9,816 ( 31.6)
1987	81,888 ( 36.3)	8,331 ( 26.8)
1988	81,306 ( 36.0)	9,242 ( 29.7)
1989	72,308 ( 32.1)	7,699 ( 24.8)
1990	73,859 ( 32.7)	7,301 ( 23.5)
1991	76,657 ( 34.0)	7,127 ( 22.9)
1992	72,919 ( 32.3)	6,527 ( 21.0)
1993	70,542 ( 31.3)	6,283 ( 20.2)
1994	67,392 ( 29.9)	5,397 ( 17.4)
1995	65,272 ( 28.9)	4,498 ( 14.5)
1996	66,110 ( 29.3)	4,300 ( 13.8)
1997	61,570 ( 27.3)	4,413 ( 14.2)
1998	58,611 ( 26.0)	5,266 ( 16.9)
1999	55,924 ( 24.8)	
2000	54,130 ( 24.0)	
2001	54,244 ( 24.0)	
2002	54,746 ( 24.3)	
2003	53,870 ( 23.9)	
2004	52,079 ( 23.1)	

年度別の検診数について1978年度を1として比較すると、本年度のモアレ撮影数は23.1で少子化にとまなう漸減の傾向が続いている(表8)。

1978年以降の15度以上の側彎の年度別発見率を表9に示した。ここに見られる傾向としては、検診開始当初の高い発見率は年毎に漸減し、1986年頃より横ばい状態になっていたが、1998年より再び高めに推移しているといえよう。これは1998年度まで続いたモアレ、低線量X線撮影、通常X線撮影の3段階方式の検診から、新しい2段階方式の検診に移行した結果で、専門医の視触診によってそれまでより細かく20度未満のカーブがチェックされている結果と思われる。

表9 脊柱側彎検診 年度別側彎発見率

年度	小学校			中学校		
	受診者数	15度以上	(%)	受診者数	15度以上	(%)
1978	1,473	8	(0.54)	783	13	(1.66)
1979	8,368	36	(0.43)	7,921	109	(1.38)
1980	14,970	73	(0.49)	18,339	268	(1.46)
1981	18,495	70	(0.38)	21,441	354	(1.65)
1982	25,244	66	(0.26)	25,827	301	(1.17)
1983	27,151	87	(0.32)	25,815	240	(0.93)
1984	30,677	98	(0.32)	29,101	248	(0.85)
1985	29,125	63	(0.22)	32,579	177	(0.54)
1986	26,630	44	(0.17)	32,469	201	(0.62)
1987	25,559	45	(0.18)	32,705	136	(0.42)
1988	25,601	42	(0.16)	32,354	151	(0.47)
1989	24,325	40	(0.16)	27,050	129	(0.48)
1990	26,297	56	(0.21)	28,299	147	(0.52)
1991	25,549	50	(0.20)	29,388	192	(0.65)
1992	30,788	57	(0.19)	33,400	164	(0.49)
1993	30,882	54	(0.17)	31,511	197	(0.63)
1994	31,486	55	(0.17)	30,994	152	(0.49)
1995	30,367	45	(0.15)	29,971	124	(0.41)
1996	29,077	43	(0.15)	32,465	168	(0.52)
1997	27,953	47	(0.17)	29,277	165	(0.56)
1998	27,234	58	(0.21)	27,280	218	(0.80)
1999	28,908	53	(0.18)	27,016	192	(0.71)
2000	27,181	74	(0.27)	26,949	245	(0.91)
2001	27,746	62	(0.22)	26,498	262	(0.99)
2002	28,069	56	(0.20)	26,677	172	(0.64)
2003	27,763	67	(0.24)	26,107	218	(0.84)
2004	27,671	87	(0.31)	24,408	249	(1.02)

### モアレの判定基準について

本会の脊柱側彎症検診は、当初から1次検診にモアレ法を採用してきた。その方法は専用ポジショナーに寄りかかるように立たせた児童生徒の背面を、投影型モアレカメラで撮影し、その画像の左右非対称

の程度を可視的に判定し、側彎症の疑いのあるものを抽出している。今回、現行の判定基準について以下に解説するが、目的とするところは20度以上で治療を要するものを見逃さずに、効率的にX線撮影対象者を選び出すことにおくもので、軽度の側彎のすべてを発見しようとするものではない。

モアレ画像の判定にあたっては、諸般の事情から低線量X線撮影が行えなくなった1999年を境に、それまでの判定基準を一部見直してより効率的な基準に改良し適用してきた。

本システムにおけるモアレ縞は、1縞5mmの等高線に設定してある。したがって縞の白と黒の間隔0.5縞、すなわち2.5mm間隔までの計測ができる。側彎症の発見のためには、まず側彎に伴う脊柱の回旋変形(前屈検査におけるハンブに相当)の現れであるモアレ縞の左右非対称に注目する。具体的には背面モアレ画像に正中線を引き、これを基準に同一高位・左右対称位置での高低差を計測する。この際に側彎症のカーブパターンを念頭において上位胸椎部、胸椎部、腰椎部の3領域ごとの最大の左右高低差を判定の指標としている。

さらにモアレ縞とは別に、ウエストラインの左右非対称、胸椎背面部の側方へのふくらみをアルファ( $\alpha$ )の指標とした。

この2つの指標の組み合わせから異常パターンを8型に分類し、この基準により側彎症の疑いのあるものをモアレ異常者として抽出し次の段階へ進めている(表10)。

まず専門医による精密検査の対象となる異常モアレパターンは以下の7型である。

- ①肩甲骨に2.5縞以上の左右差のあるもの
- ②胸椎部ないし腰椎部に2.5縞以上の左右差のあるもの
- ③胸椎部ないし腰椎部の1.5縞以上の左右差に加えて、アルファ( $\alpha$ )のあるもの
- ④3点クロス、すなわち上位胸椎部、胸椎部、腰椎部それぞれに1縞以上の左右差のあるもの
- ⑤2点クロス、すなわち上位胸椎部と胸椎部、また

は胸椎部と腰椎部それぞれに1  
縞以上の左右差のあるもの

⑥3点クロスに加えてアルファ  
(a)のあるもの

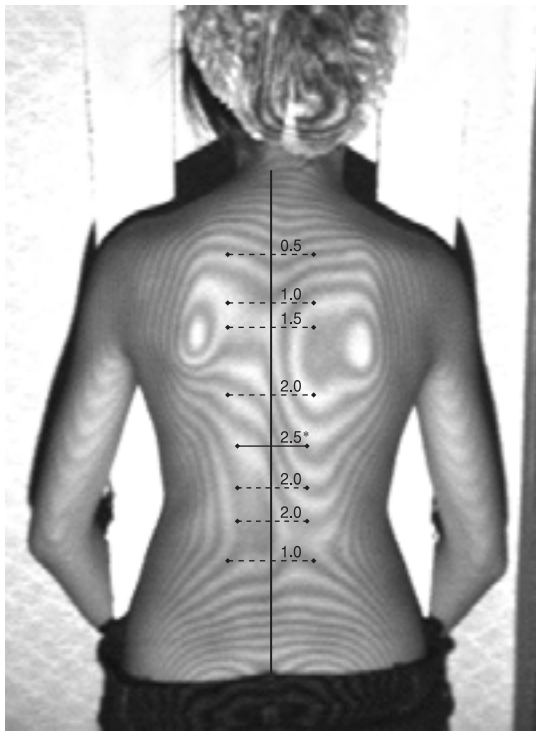
⑦2点クロスに加えてアルファ  
(a)のあるもの

である。

そして第8の異常者類型として、  
胸椎部ないし腰椎部の1.5縞または  
20縞の左右差のあるものをチェックし、次年度のモ  
アレ再検査対象者としている。

一例として右胸椎型の異常モアレパターンを示す。  
右胸椎部背面に明瞭なハンプが認められ、最大左右  
高低差は2.5縞、12.5mmと計測できる(図1)。

図1 右胸椎型  
(胸腰移行部において右側が2.5縞高い)



先にも述べたとおりわれわれは、検診では20度以  
上の側彎症を発見すれば十分で、それ以下のカーブ  
で発見されなかったものでも、かりに悪化すれば次  
年度の検診で発見すればよいとする考え方に立っ  
ている。この考え方は1978年から視診による側彎症学

表10 モアレ判定基準

左右高低差と非対称パターン	部 位	判 定
肩甲骨2.5縞以上	肩甲骨	
2.5縞以上の左右差	胸椎または腰椎	
1.5縞以上の左右差+ $\alpha$ (注1)	胸椎または腰椎	
3点クロス(各1縞以上の左右差)	上位胸椎+胸椎+腰椎	要精密検査
2点クロス(各1縞以上の左右差)	上位胸椎+腰椎または胸椎+腰椎	
3点クロス+ $\alpha$	上位胸椎+胸椎+腰椎	
2点クロス+ $\alpha$	胸椎+腰椎	
1.5縞または2.0縞の左右差	胸椎または腰椎	次年度モアレ再検査

注  $\alpha$ はウエストラインの左右非対称または胸椎背面部の側方へのふくらみ

校検診を続けてきた新潟の内山ら<sup>1)</sup>も同じで、それ以  
下の軽症例を拾い上げても、治療の必要のない多数  
の生徒に不安を与えるだけであるとしている。その  
上で検診の限界にも触れて、視診でもモアレでも体  
表面の変化から側彎の存在を推定する方法であるた  
め、発見困難な側彎は必ず存在する。全員にX線撮  
影を行うのでなければ、側彎がありながら検診で指  
摘されなかったとしても、それを見落とし、つまり  
過失とするのは適切でなく、責任は存在しない。こ  
の点について教育関係者や父兄の理解を得ることが  
大切であるとしている。

そして2次検診以降の受診についての学校側の指導  
も重要であり、装具治療や手術後の学校生活におい  
ても、教育関係者の理解が不可欠であることはいう  
までもないとしているが、側彎症検診がマンネリ化  
していくと、ともすればこの点が現場で忘れられが  
ちになる現実もある。側彎症を悪化させないという  
目的から脊柱検診が続けられているのであり、この  
原点に立つ啓発活動を忘れずに続けていかなければ  
ならない。

#### 参考文献

- 1) 内山政二ほか：新潟市(50万都市)における側彎症  
検診の現状と問題点。整形・災害外科44：27-32,  
2001

表3 脊柱側彎症検診実施成績(小学生・男子)

(2004年度)

区 分	1次・モアレ撮影			2次・直接X線撮影													
	受診者数	異常者数	%	異常者内訳						Cobb角度別内訳							
				要精密 検査	%	要病院 受診	%	次年度 モアレ	%	10° 未満	%	10° ~14°	%	15° ~19°	%	20° 以上	%
千代田区	215	7	3.26	1	0.47			6	2.79	1	0.47						
新宿区	725	12	1.66	3	0.41			9	1.24	1	0.14			2	0.28		
文京区	565	4	0.71					4	0.71								
台東区	577	4	0.69					4	0.69								
渋谷区	428	13	3.04	1	0.23			12	2.80								
中野区	770	7	0.91					7	0.91								
北区	978	9	0.92	4	0.41	1	0.10	4	0.41				1	0.10	2	0.20	
荒川区	579	8	1.38					8	1.38								
足立区	2,726	31	1.14	5	0.18			26	0.95	1	0.04	1	0.04	1	0.04	1	0.04
葛飾区	1,720	25	1.45	3	0.17			22	1.28	1	0.06	1	0.06				
調布市	746	11	1.47	2	0.27			9	1.21			2	0.27				
小平市	809	9	1.11	1	0.12			8	0.99	1	0.12						
日野市	703	8	1.14	1	0.14			7	1.00				1	0.14			
国分寺市	375	4	1.07	1	0.27			3	0.80	1	0.27						
狛江市	239	1	0.42					1	0.42								
多摩市	564	6	1.06			1	0.18	5	0.89								
あきる野市	364	3	0.82					3	0.82								
西東京市	769	8	1.04	1	0.13			7	0.91				1	0.13			
瑞穂町	178	0															
合 計	14,030	170	1.21	23	0.16	2	0.01	145	1.03	6	0.04	4	0.03	6	0.04	3	0.02

注 %は1次受診者に対して。表4~6も同じ

表4 脊柱側彎症検診実施成績(小学生・女子)

(2004年度)

区 分	1次・モアレ撮影			2次・直接X線撮影													
	受診者数	異常者数	%	異常者内訳						Cobb角度別内訳							
				要精密 検査	%	要病院 受診	%	次年度 モアレ	%	10° 未満	%	10° ~14°	%	15° ~19°	%	20° 以上	%
千代田区	195	20	10.26	4	2.05			16	8.21	1	0.51	1	0.51	1	0.51	1	0.51
新宿区	660	29	4.39	11	1.67			18	2.73	2	0.30	4	0.61	4	0.61		
文京区	513	21	4.09	8	1.56			13	2.53	1	0.19	5	0.97			1	0.19
台東区	519	15	2.89	8	1.54	1	0.19	6	1.16	1	0.19	1	0.19	2	0.39	2	0.39
渋谷区	390	28	7.18	10	2.56			18	4.62	2	0.51	1	0.26	2	0.51	1	0.26
中野区	784	38	4.85	13	1.66			25	3.19	2	0.26	4	0.51	1	0.13	5	0.64
北区	900	37	4.11	13	1.44			24	2.67	5	0.56	1	0.11	4	0.44	2	0.22
荒川区	520	37	7.12	12	2.31			25	4.81	2	0.38	2	0.38	6	1.15	2	0.38
足立区	2,584	102	3.95	25	0.97			77	2.98	6	0.23	8	0.31	6	0.23	5	0.19
葛飾区	1,632	68	4.17	16	0.98			52	3.19	3	0.18	8	0.49	2	0.12	3	0.18
調布市	713	41	5.75	10	1.40			31	4.35	1	0.14	3	0.42	2	0.28	2	0.28
小平市	781	45	5.76	13	1.66			32	4.10	2	0.26	3	0.38	4	0.51	3	0.38
日野市	645	28	4.34	9	1.40	1	0.16	18	2.79	1	0.16	4	0.62	1	0.16	3	0.47
国分寺市	316	12	3.80	3	0.95			9	2.85					2	0.63	1	0.32
狛江市	259	8	3.09	4	1.54			4	1.54			2	0.77	2	0.77		
多摩市	558	33	5.91	8	1.43	1	0.18	24	4.30	3	0.54	2	0.36	2	0.36	1	0.18
あきる野市	367	16	4.36	4	1.09			12	3.27	2	0.54	2	0.54				
西東京市	732	39	5.33	9	1.23			30	4.10	3	0.41	1	0.14	3	0.41	1	0.14
瑞穂町	156	4	2.56					4	2.56								
合 計	13,224	621	4.70	180	1.36	3	0.02	438	3.31	37	0.28	52	0.39	44	0.33	33	0.25

表5 脊柱側彎症検診実施成績(中学生・男子)

(2004年度)

区 分	1次・モアレ撮影								2次・直接X線撮影									
	受診者数	異常者数	%	異常者内訳				Cobb角度別内訳										
				要精密 検査	%	要病院 受診	%	次年度 モアレ	%	10° 未満	%	10° ~14°	%	15° ~19°	%	20° 以上	%	
千代田区	196	6	3.06	1	0.51			5	2.55								1	0.51
新宿区	527	15	2.85	1	0.19			14	2.66			1	0.19					
文京区	355	12	3.38	3	0.85	1	0.28	8	2.25	1	0.28	2	0.56					
台東区	405	22	5.43	3	0.74	2	0.49	17	4.20			1	0.25				1	0.25
渋谷区	264	11	4.17	3	1.14			8	3.03					1	0.38			
中野区	622	19	3.05	5	0.80	1	0.16	13	2.09	1	0.16	1	0.16	1	0.16	2	0.32	
北区	749	16	2.14	2	0.27	2	0.27	12	1.60	1	0.13			1	0.13			
荒川区	471	12	2.55	3	0.64			9	1.91	1	0.21	1	0.21	1	0.21			
足立区	2,252	94	4.17	8	0.36	3	0.13	83	3.69	4	0.18			3	0.13			
葛飾区	1,476	40	2.71	5	0.34			35	2.37	3	0.20	2	0.14					
調布市	547	22	4.02	3	0.55			19	3.47	1	0.18			1	0.18			
小平市	600	24	4.00	1	0.17			23	3.83			1	0.17					
日野市	600	19	3.17	2	0.33			17	2.83					1	0.17			
東村山市	562	16	2.85	1	0.18			15	2.67	1	0.18							
国分寺市	266	9	3.38	2	0.75			7	2.63	1	0.38							
狛江市	214	5	2.34					5	2.34									
多摩市	507	15	2.96					15	2.96									
西東京市	595	19	3.19	4	0.67			15	2.52			2	0.34	2	0.34			
瑞穂町	189	4	2.12	1	0.53			3	1.59									
合 計	11,397	380	3.33	48	0.42	9	0.08	323	2.83	14	0.12	11	0.10	11	0.10	4	0.04	

表6 脊柱側彎症検診実施成績(中学生・女子)

(2004年度)

区 分	1次・モアレ撮影								2次・直接X線撮影									
	受診者数	異常者数	%	異常者内訳				Cobb角度別内訳										
				要精密 検査	%	要病院 受診	%	次年度 モアレ	%	10° 未満	%	10° ~14°	%	15° ~19°	%	20° 以上	%	
千代田区	166	17	10.24	9	5.42			8	4.82	1	0.60	2	1.20	1	0.60	3	1.81	
新宿区	436	49	11.24	19	4.36	1	0.23	29	6.65	2	0.46	4	0.92	5	1.15	3	0.69	
文京区	361	43	11.91	19	5.26	2	0.55	22	6.09	4	1.11	6	1.66	4	1.11	3	0.83	
台東区	367	39	10.63	13	3.54	2	0.54	24	6.54	3	0.82	1	0.27	2	0.54	5	1.36	
渋谷区	278	36	12.95	13	4.68	4	1.44	19	6.83			2	0.72	2	0.72	2	0.72	
中野区	529	51	9.64	18	3.40	2	0.38	31	5.86	3	0.57	6	1.13	3	0.57	2	0.38	
北区	707	56	7.92	17	2.40	1	0.14	38	5.37	4	0.57	5	0.71	2	0.28	6	0.85	
荒川区	418	41	9.81	14	3.35	1	0.24	26	6.22	3	0.72	4	0.96			4	0.96	
足立区	2,081	226	10.86	77	3.70	14	0.67	135	6.49	11	0.53	18	0.86	14	0.67	21	1.01	
葛飾区	1,374	149	10.84	49	3.57	2	0.15	98	7.13	8	0.58	15	1.09	13	0.95	9	0.66	
調布市	482	53	11.00	19	3.94			34	7.05	2	0.41	3	0.62	6	1.24	6	1.24	
小平市	593	73	12.31	28	4.72	3	0.51	42	7.08	4	0.67	3	0.51	6	1.01	11	1.85	
日野市	558	51	9.14	20	3.58	2	0.36	29	5.20	4	0.72	4	0.72	6	1.08	2	0.36	
東村山市	544	71	13.05	20	3.68	1	0.18	50	9.19	3	0.55	6	1.10	3	0.55	6	1.10	
国分寺市	190	19	10.00	6	3.16			13	6.84	2	1.05	2	1.05	1	0.53	1	0.53	
狛江市	183	19	10.38	6	3.28	2	1.09	11	6.01			3	1.64	3	1.64			
多摩市	453	60	13.25	19	4.19	2	0.44	39	8.61	3	0.66	3	0.66	5	1.10	6	1.32	
西東京市	588	64	10.88	22	3.74	1	0.17	41	6.97	3	0.51	7	1.19	4	0.68	3	0.51	
瑞穂町	150	14	9.33	8	5.33			6	4.00	2	1.33	1	0.67	3	2.00	1	0.67	
合 計	10,458	1,131	10.81	396	3.79	40	0.38	695	6.65	62	0.59	95	0.91	83	0.79	94	0.90	